

## ナタ シャM.ケリ (元キリスト教徒, アメリカ合 国) (パ ト1/2)

:

明:あるキリスト教徒の女の子が、キリスト教における教 の信仰を受け入れることに困 を 出す。

目:[事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: ナタ シャM.ケリ

ED6 Dec 2009

集日 21 Oct 2010

私は子供の から神を信じるよう育てられました。ほぼ 日曜教会に出席し、 学校に行き、 歌 で歌を歌いました。しかしそれでも宗教は、私の人生において重要なものではありませんでした。

私にも神が自分自身に近しく思えた がありました。私は 望の や い事がある にはしばしば、 きと さを得るために神に祈りました。しかしすぐに私は、神に何か乞うことを止めた 、この神を近しく思う感情が即座に消えてしまうことに づきました。私は信じてはいましたが、信仰心に欠けていることを知りました。

私は世界が、神がその折々に思いのままに操るゲ ムであることと感じていました。神は人々に を かせ、そして人々はどういうわけかこの に信仰を つけることが出来たのです。

私は成 し世界をもっと知るようになるにつれ、神をより信じるようになりました。混沌とした世界に秩序をもたらすために、神がいるべきはずであると私は信じました。もし神がいなければ、何千年も前に世界は全くの 秩序の中に わってしまっていたことでしょう。超自然的な力が人 を き、守っていると信じることは私にとって心地のよいことでした。

子供は通常、彼らの宗教を からり受けます。私もそうでしたが、12 の になると自分の精神性について深く考え始めました。私は自分の人生において、信仰のあるべきところに空虚さがあったことに 付きました。いつでも私は、必要または不安なことがあると、ただ神という名の かに祈っていました。しかしこの神とは本当は なののでしょうか？ 私はかつて母に に祈るのか、神か、またはイエスに祈るのかを ねたことがありました。そして私は母が正しいと信じ、イエスに祈り、そして全てのよいことは彼のおかげだと考えたのです。

宗教は の余地のないものだ と いていましたが、私と友人は何度もそうしようとしてきました。私はよく友人とプロテスタント、カトリック、ユダヤ教について しました。これらの を通して自分自身をもっともっと探求し、そして自分の空虚さを何とかすべきだと 心したのです。そして13 の 、真 への探求を始めました。

人 は常に、知 や真 への不断の追求の中にあります。私の真 への探求は、知 の活 な追求だとは考えられませんでした。私は を け、そして をもっと ましたが、ここから余り 展はありませんでした。この期 母は私のこの行 に づき、そしてそれ以降私は“宗教的局面”に入りました。しかし私の行 は、局面ということからはかけ れていました。私は に、新しく得た知 を家族と分かち合ったのです。私はキリスト教の信仰、 践、そして教 と、ユダヤ教の最低限の信仰と 践について学びました。

数ヶ月 の研究の中で私は、もしキリスト教を信仰すれば、自分自身が地 に行くことになると 付きました。私の 去の罪を考 するする必要もなく、私は南部の牧 たちが言うところの“地 への一方通行の道”にいたのです。私はキリスト教の全ての教えが信じられませんでした。それでも私は努力したのです。

私は教会において何度も、また随 への呼びかけの 中も、自分自身と っていたことを思い出すことができます。私は、 にイエスが自分の主であり救世主であると告白することで、天国での永 の生活を保障されるのだと言われました。私は、 して牧 の げられた手の方の道へと くことはなく、私の不本意さは自分が地 へ向かっているという恐怖感を めさえしたのです。この 、私は不安でした。私はよく恐い を 、そしてこの世で自

分が孤独だと感じました。

しかし、私には信仰心が足りなかつただけではありませんでした。私にはあらゆる知あるキリスト教徒を当惑させる多くの疑 がありました。一度もそれに して 足した答えを得ることはありませんでした。それどころか私は、もっと困惑するようなことを言われたのです。私は神に理屈をつけようとしている、と言われました。そしてもし私が信仰心を持っていたならば に信じることができ、また天国に行くことができるのだ、と言われました。しかし、それこそが だったのです。私は信仰心を持っていませんでした。私は信じていなかったのです。

.私は何も信じていませんでした。神がいることと、イエスが神の息子で人 を救うために遣わされたことは信じていました。それだけでした。しかしながら私の と推 は、私の信仰心を超えていました。

その はそれ以 も しました。私の混乱は しました。そして私の 信のなさも しました。私は15年 、ただ の信仰だったという理由で、盲目にそれ に っていたのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/66>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。